

CHASE入力情報の適正化に資するガイドラインの作成

株式会社三菱総合研究所

厚生労働省では、令和2年5月よりCHASEの運用を開始し、介護事業所・施設から高齢者の状態やケアの内容等のデータ収集を開始したところである。令和3年4月からは、「通所・訪問リハビリテーションデータ収集システム（VISIT）」とCHASEの一体運用が開始され、科学的介護の理解と浸透を図る観点から、名称が科学的介護情報システム（Long-term care Information system For Evidence; LIFE ライフ）（以下「LIFE」という）とされる予定である。

LIFEにおいて収集したデータの解析を行い、自立支援・重度化防止の観点から、科学的な効果検証等を進めていく上で、介護報酬の中でのアウトカム評価の指標等としての使用を考慮すると、データの精度管理は非常に重要である。

本事業では、LIFEの収集項目について、項目ごとに意図する評価の在り方や、専門的な知見を踏まえた測定方法等を概説し、データ精度の管理に資するようなガイドラインを策定することを目的とした。科学的介護に関する知見を有し、介護現場も理解している有識者からなるワーキンググループを設置し、有識者による助言を得ながら、以下の3点を実施した。

1. LIFE収集項目における評価の在り方及び測定方法の在り方の検討

ワーキンググループの有識者と議論の上で、LIFE収集項目における評価の在り方及び測定方法の在り方の検討を行った。

2. LIFE収集項目におけるデータ精度を管理するためのガイドラインの作成

LIFEへのデータ登録及びフィードバック票の活用を通じて、事業所・施設におけるケアの質向上に向けた取り組みを支援するために、以下を対象者として想定し、データ精度の管理に資するようなガイドライン（手引き）を作成した。

- ① CHASEの活用を予定している事業所・施設管理者等
- ② CHASEからのフィードバックを活用してケアの質の向上を検討する職員
- ③ 利用者へのアセスメントを行い、CHASEへのデータ入力を行う職員

3. Barthel Indexの評価方法に関する説明動画資料の作成

Barthel Indexの評価精度を高めるため、Barthel Indexの評価に不慣れな介護職員等をおもな対象とした教育素材として、各項目（10項目）の評価基準の詳細や、ケーススタディ（評価基準の実例を点数別に示す）に関する説明動画を作成した。